

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道9号 北条道路 <small>ほうじょう</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局		
起終点	自:鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい長瀬 <small>とっとり とうはく ゆり はまちょう ながせ</small> 至:鳥取県東伯郡琴浦町槻下 <small>とっとり とうはく ことらちようつきのした</small>				延長	13.5km		
事業概要 一般国道9号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約770kmの主要幹線道路である。 北条道路は、湯梨浜町はわい長瀬から琴浦町槻下に至る延長13.5kmの道路である。 事業目的は、道路の適正な機能分担による安全性の向上、観光地の活性化や企業進出の促進、救急医療アクセスの強化である。								
H29年度事業化		H28年度都市計画決定		R2年度用地着手		H30年度工事着手		
全体事業費		約843億円		事業進捗率 (令和6年3月末時点)		約55% 供用済延長 0.0km		
計画交通量		19,400 ~ 27,400台/日						
費用対効果分析	B/C (事業全体)		EIRR (事業全体)		総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)	
	2.2 (0.7)		9.0% (2.3%)		444/8,185億円		598/18,012億円	
	2.7 (1.1) [2%]				事業費: 388/7,256億円		走行時間短縮便益: 409/14,615億円	
	3.0 (1.3) [1%]				維持管理費: 56/ 818億円		走行経費減少便益: 147/ 2,773億円	
	3.0 (1.3) [1%]				更新費: -/ 111億円		交通事故減少便益: 42/ 623億円	
(残事業)		(残事業)		(事業全体)		(残事業)		
1.3 (1.3)		5.9% (5.7%)		交通量 B/C=1.9~2.5(±10%)		交通量 B/C=1.2~1.4(±10%)		
1.9 (1.8) [2%]				事業費 B/C=2.2~2.2(±10%)		事業費 B/C=1.2~1.5(±10%)		
2.3 (2.2) [1%]				事業期間 B/C=2.2~2.2(±20%)		事業期間 B/C=1.3~1.4(±20%)		
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失の削減が期待される ・琴浦町から倉吉駅(特急停車駅)へのアクセス向上が期待される ・湯梨浜町から米子鬼太郎空港(共用空港)へのアクセス向上が期待される ②物流効率化の支援 ・湯梨浜町から境港(重要港湾)までのアクセス向上が期待される ③国土・地域ネットワークの構築 ・高規格道路「山陰自動車道」に並行する自動車専用道路の一部として位置づけ ・隣接した日常活動圏中心都市間(鳥取市~米子市間)を最短時間で連絡する路線を構成する ・日常活動圏中心都市(倉吉市)へのアクセス向上が見込まれる ④個性ある地域の形成 ・主要な観光地(白壁土蔵群)へのアクセス向上が期待される【R5観光入込客数:44万人(白壁土蔵群)】 ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次救急医療機関(鳥取県立中央病院、鳥取大学医学部附属病院)へのアクセス向上が期待される ⑥災害への備え ・第1次緊急輸送道路である国道9号の代替路線を形成 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される ⑧生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が期待される ・SPM排出量の削減が期待される ⑨他のプロジェクトとの関係 ・大規模事業(一般国道313号(北条倉吉道路(延伸))と一体的に整備する必要がある ・「鳥取県の将来ビジョン(令和2年10月)」「第2次北栄町まちづくりビジョン(令和2年9月、R5.3改訂)」「第4次								

湯梨浜町総合計画(令和3年3月)に位置づけられている

関係する地方公共団体等の意見

「一般国道9号 北条道路」の意見「継続」という対応方針(原案)について異存ありません。
 事業費の増加は、事前に予見不可能な内容で、道路の安全性や強靱性確保の観点からやむを得ないものと考えます。
 またこの度、令和8年度の全線供用から、はわいIC～北条IC(仮称)の部分供用に見直しとなりましたが、引き続きコスト縮減と安全確保を図りつつ、一日も早い供用開始にご尽力いただきますようお願いいたします。
 あわせて、北条IC(仮称)～大栄東伯ICを含めた全線開通が大幅に遅延することがないように工程精査をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

H31年4月に湯梨浜地区交差点立体化区間が完成。
 H31年4月に琴の浦ICが開通。
 R元年5月に鳥取西道路が全線開通。
 R元年度に北条道路に接続が予定されている国道179号はわいバイパス、(主)倉吉由良線が事業化。
 R7年3月30日に鳥取県立美術館が開業予定
 R7年4月に道の駅「ほうじょう」がリニューアルオープン予定
 R9年に青山剛昌ふるさと館がリニューアル予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和6年3月末時点で、事業全体の進捗率は約55%、用地の進捗率は約91%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期全線開通を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。()内は社会的割引率の値

※B/Cの値は、鳥取IC～米子JCTを対象とした場合、()書きの値は事業化区間にした場合の費用便益分析結果。